

障がい者自身が参加し議論 改革推進会議が初会合



障がい者自身や家族らが参加した政府の「障がい者制度改革推進会議」の初会合が 1 月 12 日開かれた。

福島瑞穂特命担当大臣は、障害者施策の基本理念を定めた障害者基本法の抜本改正▽障害者自立支援法に代わる障がい者総合福祉法（仮称）▽障害者差別禁止法制——の 3 点について、夏までに骨格を示す方針を提案した。いずれも障害者権利

条約の批准に必要だとして障害者団体などが対応を求めているものだ。

議長には小川栄一日本障がいフォーラム（JDF）代表を選出。会議では、障がい者権利条約の批准に向けた障がい者基本法の抜本改正や、民主党がマニフェスト（政権公約）に掲げた「障がい者総合福祉法」（仮称）制定などについて、障害者の差別を禁じた国連の障害者権利条約を批准するための国内法整備も含めた制度改革の論議が本格的に始まった。同会議で議論すべき課題は山積しているため、今後は月 2 回程度の協議が予定されている。

1 月理事会の議題

1. 10 周年記念のつどい
 - ①当日の準備作業工程（タイムスケジュール）の確認
 - ②要員の確保と役割分担の確認
 - ③各家族会の参加状況と今後の取り組み
2. 制度改革推進会議に向けた要求の取りまとめ
3. 報告事項
 - ①愛知フォーラムの県・及び県議会に向けての活動の現状
 - ②名古屋市の来年度予算と名家連の要望事項の反映状況
4. 提案
 - ①2 月臨時理事会の開催について



早いもので「10 周年記念のつどい」もアツという間に目前に迫ってきました。今迄通り、名家連のチームワークで成功に向けて頑張りましょう。障害者を取り巻く状況は大改革の時期を迎えました。私たち家族はどんな法律、制度、サービスを求めていくのか→「新法は私たちの手で作る」という意気込みで、私たち自身の要求をしっかりと議論しましょう。

